

帰国後 2 週間以内に提出してください (厳守) A4 用紙 4 枚以内

(海外)・国内) インターンシップ報告書

2018 年 3 月 23 日提出

氏名	佐藤 匡浩
所属	人獣・国際疫学部門
学年	D3
活動先名	WHO Representative Office in the Lao People's Democratic Republic、ラオス人民民主共和国
期間 ① (出発日―帰礼日) ② (インターンシップ 実施開始日―終了日)	① 2018 年 1 月 13 日- 3 月 11 日 ② 2018 年 1 月 15 日- 3 月 9 日

・活動目的及びインターンシップ先を選択した理由

[活動目的]

WHO の Country Office が開発途上国で行っている人獣共通感染症を含めた感染症対策の活動について学ぶ。

[インターンシップ先選択理由]

開発途上国における感染症対策と感染症対策のためのキャパシティ・ディベロップメントの現場を体験したいと考え、開発途上国の WHO の Country Office をインターンシップ先を選択した。ラオス人民民主共和国 (ラオス) は後開発途上国に分類されていて、東南アジア諸国の中では開発が遅れている国のひとつであり、WHO Representative Office in the Lao People's Democratic Republic (WHO Laos) は 2017 年から 2021 年までのラオスへの協力戦略の優先事項の中に新興感染症と公衆衛生を挙げていることから、WHO Laos はインターンシップ先として適していると考えた。

・活動内容・成果 (2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい)

WHO Laos では、Dr. Reiko TSUYUOKA の指導のもと、WHO Health Emergencies Programme のチームに参加し、One Health に関連した次のような活動に従事した。

[文書のレビューと校正ならびにデータ収集]

ラオス政府は National Rabies Elimination Strategy を起草したが、完成・承認には至っていない。著者は英語に翻訳された草案のレビューと校正を、ラオス語版を参照しながら行った。このレビューは、National Rabies Elimination Strategy の完成に役立てられると思われる。

WHO は狂犬病に関する factsheet をウェブサイトで公開しているが、ラオス語版

は存在しなかった。著者はラオス語に翻訳された WHO の狂犬病の factsheet のレビューを、英語版を参照しながら行った（図 1）。ラオス語版 factsheet は、予防啓発資料として利用されるものと思われる。

WHO Western Pacific Region Office (WPRO) は食品安全に関する Regional Framework を更新し、加盟国に新しい Framework に適合した National Strategy の規定を促している。著者はラオス語に翻訳された Framework の更新に関する文書ならびに発表スライドのレビューを、英語版を参照しながら行った。これら文書はラオス政府が食品安全の National Strategy の更新の議論を行う際に利用されるものと思われる。

ラオスの過去の狂犬病発生状況に関する資料は限られている。著者は過去の狂犬病の発生データを研究結果等から抽出し、人と動物における発生状況をまとめた文書を作成した。

[疫学訓練プログラムの訓練生のメンター]

ラオス政府は疫学調査能力強化のために Lao Field Epidemiology Training Programme を WHO の支援を得て行っている。著者は、2 人の訓練生の外部機関メンターに割り当てられ、訓練生が計画した疫学調査に関連する人獣共通感染症の基本的な情報や先行研究例を紹介し、ラオス語で書かれた調査計画書をレビューし、データ収集を支援した。

[集団駆虫キャンペーン]

ラオス南部のカンボジア国境付近のメコン川流域はメコン住血吸虫 (*Schistosoma mekongi*) の流行地となっていて、ラオス政府は撲滅のための集団駆虫キャンペーンを実施している。著者は、チャンパサック県コーン郡で行われた集団駆虫キャンペーンのためのスタッフの訓練プログラムに参加し、メコン川の中にある島において健康教育と集団駆虫活動の監督を行った（図 2）。

[会議ならびにワークショップへの参加]

2018 年 1 月 15 日から 1 月 19 日まで WPRO コンサルタントによる人獣共通感染症に関する保健省と農林省の間での協調機序の調査が行われた。著者はこの調査に同

行し、人獣共通感染症に対するラオス政府の対応体制と問題点を知ることができた。

2018年1月22日から1月26日までWPROの食品安全の担当者が新しいRegional Frameworkの説明とそれに基づいたNational Strategyの改定を促すためにラオスを訪問した。著者は、この視察に同行し、ラオスにおける食品安全の関係官庁の立場と食品安全対策の現状を知ることができた。

2018年1月29日から2月2日までWHO本部から薬剤耐性菌対策の担当者がラオスを訪問した。著者は、この視察に同行し、Institut Pasteur du Laosの施設見学を行うことで、ラオスにおける最先端の実験室設備を知ることができた。

2018年2月7日にラオスとカンボジアで実施されていたラボラトリーネットワークプロジェクト(LACANET)の最終会議に参加して研究結果を聴講した。

[研究活動への協力]

英国のオックスフォード大学による研究ユニットであるLao-Oxford-Mahosot Hospital Wellcome Trust Research Unit (LOMWRU)はラオスにおいて発疹チフス（ツツガムシ病）の研究を行っている。著者は、Dr. Reiko TSUYUOKAよりLOMWRUのDr. Ivo ELLIOTTを紹介され、発疹チフスに関する和文論文の英訳ならびにデータ抽出に協力した。この際に、LOMWRUの研究施設とマホソット病院の細菌診断ラボラトリーの見学をさせていただいた。この研究活動への協力はインターンシップ終了後も継続している。

以上の活動を通じて、開発途上国における人獣共通感染症を含む感染症の発生状況や公衆衛生上の諸問題の現状を知ると共に、WHOのCountry Officeが開発途上国で実施している支援活動を体験することで、その活動への理解が深まった。

- 40% ຂອງຄົນທີ່ຖືກຂັດຂ້າງໂລວ່າເປັນນີ້ ກັດນັ້ນ ແມ່ນເດັກນ້ອຍ ທີ່ມີອາຍຸຜູ້ກວ່າ 15 ປີ.
- ຫຼັງຈາກສາວັດນັ້ນຂັດຂ້າງໂລວ່າເປັນນີ້ ການລ້າງບາດແວດວ່າມາສະຍຸ ຢ່າງຮີດເຖິງ ແລະ ອັນນີອັນໃດ ເປັນສິ່ງຂ້າງກັນຊາຍ ແລະ ສາມາດຊ່ວຍຊີວິດໄດ້
- ຫຼັງການອະນາໄມໂລກ (WHO), ຫຼັງການອົກສະຊາລະທາຍສັດໂລກ (OIE), ຫຼັງການອະນາຫານ ແລະ ການກະເສດ ຂອງສະຫະປະຊາຊາດ (FAO) ແລະ ສະມາທິດກວມຄຸມພະຍາດໂລກ (IARC) ໄດ້ສ້າງການປະສານງານພ້ອມສາກົນເພື່ອການຕ້ານພະຍາດໂລກ (a global "United Against Rabies" collaboration) ເພື່ອສະໜອງ ຍຸດທະສາດຮ່ວມກັນ ເພື່ອວັດມຸຊີ "ການຜ່າຍຂອງພະຍາດໂລກອັນອະນາດ໌ໄດ້ເປັນສູນ ພາຍໃນປີ 2030" ("Zero human rabies deaths by 2030")

Comment [SM1]: ອົງການສຳຄັນ
 Comment [SM2]: ອະນາໄມສາມະສາຍສັດໂລກ
 Comment [SM3]: ສາດ
 Comment [SM4]: ເຊັ່ນນັ້ນ
 Comment [SM5]: ພະຍາດໂລກອັນອະນາດ໌

ພະຍາດ໌ ແມ່ນພະຍາດໂລກເຊື້ອຈຸລະໂລກ ທີ່ມີຈາຍເຮັດໂຕ້ຄົນເສຍຊີວິດເກືອບທັງໝົດ ຫຼັງຈາກ ການເລີ່ມມີອາການຂອງດ້ານຄລິນິກ ແມ່ນປາຍປະຫວັດທາງໃນການແຕ່ງຊ່ອງໂລກວິໄນຊັບຄົນ ອອດ 99% ຂອງກໍລະນີ ນອກຈາກນີ້ ພະຍາດ໌ ຍັງອາດສາມາດສົ່ງຜົນກະທົບໄສ້ທັງສັດນ້ຳນ ແລະ ສັດປ່າ ມັນແຕ່ງຊ່ອງໂປ່ງກັບ ໂດຍຜ່ານການກັດ ຫຼື ຊູດ. ໂດຍປົກກະຕິແລ້ວ ແມ່ນຜ່ານສາງນ້ຳລາຍ. ພະຍາດ໌ ແມ່ນສົບເສີມໃນສັດສາຍອື່ນ, ຍົກເວັ້ນ ພະຍາດ໌ ຍັງຄາກຕິກ. ມີຄົນເສຍຊີວິດທຸກປີກວ່າ 95% ທີ່ເກີດຂຶ້ນໃນພາກພື້ນອາຊີ ແລະ ອາຟຣິກາ. ພະຍາດ໌ ເປັນສິ່ງໄມ້ນ້ຳກະທຳພະຍາດ໌ອັນອະນາດ໌ທີ່ຖືກປ່ອຍປະ ຊິງພົບໄດ້ທຸກວ່າພື້ນ ແມ່ນກວດຕ້າປະຊາຊົນທຸກຊາດ ແລະ ອອກອອ ທີ່ວ່າສົ່ງຊີວິດ ຢູ່ໃນສ່ອງຄົນນັ້ນນະດົກທ່າງໄກສອກຫຼັກ ເຖິງແມ່ນມີ ຢາວັດຊີນ ແລະ ຮີມພາຍໂປກາໂລບູນຊິນ ກໍ່ພະຍາດ໌ ທີ່ມີປະສິດທິພາບຂອງຄົນ ແລ້ວກໍ່ຕາມ. ມັນກໍ່ຍັງບໍ່ມີຄວາມພ້ອມ ຫຼື ເຊົາເຖິງ ສຳລັບຜູ້ທີ່ຕ້ອງການ ໃນຂອບເຂດທັງໂລກ. ການເສຍຊີວິດອັນພະຍາດ໌ບໍ່ຕ້ອຍ

图1 ラオス語文書（狂犬病 factsheet）のレビューの一例



图2 メコン住血吸虫流行地の小学校での健康教育と集団駆虫

- ・ 今後のキャリアパスを考える上でどのようにプラスになったか。
 就業体験によってWHOの労働環境や雇用プロセスを深く理解することができたことに加え、実際に勤務するにあたりどのような能力が要求されるのかも実感することができた。また、One Health 案件において、獣医師が活躍できる案件が数多くあることを知ることができた。加えて、国連傘下の機関と援助機関（開発ドナー）の役割の違いと協調の重要性も明確になった。さらに、WHO Laos のスタッフ（特にナショナルスタッフ）と良好な関係を構築することができた。そして、ラオスをフィールドにしている海外の研究者とのコネクションができた。
- ・ 後輩へのアドバイス
 インターンシップ先を選定するにあたっては、自身のバックグラウンドと今後のキャリアパスを考慮した上で、過去に誰も行ったことがない場所へ行くことを推奨する。

ただし、WHO の Country Office に行く場合は、Host country（滞在国）の公用語がある程度理解できないと厳しい場合があるので注意が必要であると思われる。

国際連合安全保安局（UNDSS）が提供している e-learning の安全講習（<https://training.dss.un.org/>）は実践的で非常に有益である。海外（特に開発途上国）に長期滞在した経験が乏しい学生（特に日本人）には受講を強く推奨する。

長期滞在する場合の滞在先の選定にあたっては、セキュリティ（防衛の際の堅牢性と利便性）を最優先に考えることを非常に強く推奨する。また、安全の観点から生活パターンの固定化は絶対に避けるべきである。

緊急時のために、音声通話が可能な滞在国で使用できる携帯電話を用意すると共に、現地にある母国の大使館の連絡先を控えておくことを推奨する。

基本的な現地語（挨拶、数字など）を覚えておくコミュニケーションが円滑になり非常に便利である。

外国人から母国のことについて尋ねられた場合に適確に回答できる教養を身に付けておくことが好ましいと思われる。

指導教員確認欄	指導教員所属・職・氏名
---------	-------------

- ※1 電子媒体を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。
- ※2 インターンシップ先の担当者が活動内容を証明した文書（署名入り）を提出して下さい。
- ※3 本報告書はリーディングプログラムキャリアパス支援委員会で内容を確認します。その後、教務委員会で単位認定を受けることとなります。

提出先：VETLOG

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp